

平成 23 年 1 月 24 日
独立行政法人国民生活センター

入札のたびに手数料が…！ “ペニーオークション” のトラブルが急増

インターネット上で、新品の電化製品やブランド品等が非常に格安で出品される、いわゆる“ペニーオークション”に関する相談が最近増加している。ペニーオークションとは、新たなタイプのインターネットオークションの一種である。一般のインターネットオークションであれば、入札には費用がかからず落札者だけが商品代金を支払うところを、ペニーオークションの場合は、落札しなくとも入札するたびに手数料を支払わねばならないといった点に大きな特徴がある。

全国の消費生活センターには、オークション開始価格が 0 円等、破格の安さで出品されているのにつられ、このオークションの仕組みを理解せずに利用し、「こんなに手数料がかかるとは思わなかった」などの相談が寄せられている。そこで、消費者に“ペニーオークション”におけるトラブルを紹介し、注意を呼びかける。

1. ペニーオークションとは

ペニーオークションとは、日本では 2009 年頃よりみられるようになったインターネットオークションで、人気商品を新品で市場価格よりかなり格安で手に入れることができるとうたわれている。

一般のインターネットオークションとペニーオークションの仕組みの主な違い、ペニーオークションの特徴は、以下のとおりである（＜参考資料＞参照）。

①オークションに関わる立場

インターネットオークションでは、サイト運営業者がオークションの「場」を提供する。そこに、商品の出品者と入札者（落札者を含む）が参加するという三者の関係であるのに対し、ペニーオークションでは、サイト運営業者と出品者が同一で、サイト運営業者と入札者という二者の関係となっている。

②入札手数料、入札価格

インターネットオークションでは、入札行為自体では手数料等の費用が発生しないのに対し、ペニーオークションは入札のたびに手数料が発生する。入札手数料は、おおよそ 50～75 円程度で、「ポイント」「コイン」等と呼ばれ、オークションに参加する前に、サイトでのみ使用可能な“通貨”として^{あらかじめ}予めまとめて、クレジットカード決済で購入するケースが多い。購入済みの入札手数料は、未使用であってもたいてい返金することができない。

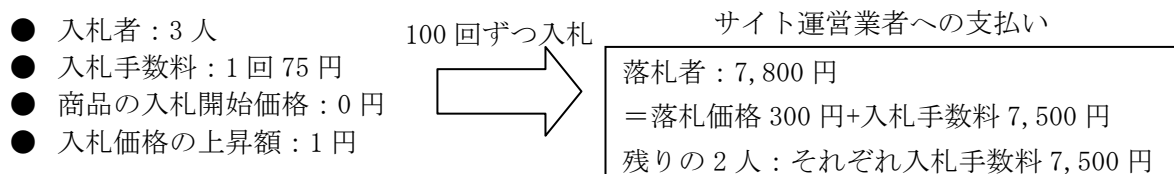
また、インターネットオークションでは入札者が入札価格を設定し、1 回の入札で価格が大幅

に上昇することもあるが、ペニーオークションの場合、たとえば1円ずつ競り上がるというように、入札単位が少額で固定的に設定されており、入札者が自由に価格を決められない。

③オークション時間

インターネットオークションの場合、オークション開始時にその時間について出品者自身が設定することが一般的であるため、入札者はオークションの終了時間がわかる。それに対し、ペニーオークションでは、サイト上に「残り〇時間〇〇分〇〇秒」と表示されるが、誰かが入札するたびに数十秒ずつ時間が延長されていく。最終入札者が結果的に落札者となるため、終了時間が近づくと誰かが入札し、それによって終了時間がまた延長されることが繰り返されて、入札頻度でオークション時間が左右され、入札者自身はオークションの終了時間が予測できない。

ペニーオークションの具体例を挙げてみる。



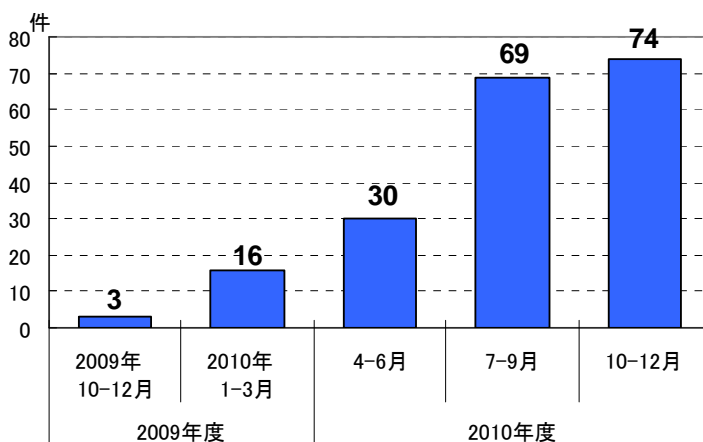
上記の条件で、それぞれの入札者が100回ずつ入札を行い、合計の入札回数300回の時点でオークションが終了となるケースでは、結果的に、落札者は落札価格の300円に入札手数料7,500円を追加した7,800円を、落札できなかった残りの2人は商品を手にとれないが、それぞれ入札手数料7,500円を、出品者であるサイト運営業者へ支払うこととなる。

2. PIO-NET（全国消費生活情報ネットワーク・システム）^{注1}にみる相談の概要

（1）相談件数の推移

PIO-NETでは、相談は2009年11月から寄せられ始め、これまで192件となっている^{注2}。年度別では、2009年度が19件、2010年度は173件と急増傾向にある。

図1 ペニーオークションに関する相談件数の推移



^{注1} PIO-NET(パイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム)とは、国民生活センターと全国の消費生活センターをオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと。

^{注2} 2011年1月15日までの登録分。件数は、本調査のため特別に事例を精査したものである。

192 件の内訳は、以下のとおりである（不明・無回答等は除く）。

（２）契約当事者の属性

①年代別

年代別では、30 歳代が 65 件（36.3%）と最も多く、次いで 40 歳代が 54 件（30.2%）、20 歳代が 22 件（12.3%）、50 歳代が 19 件（10.6%）である。平均年齢は、38.8 歳である。

②性別

性別にみると、男性 143 件（75.3%）、女性 47 件（24.7%）で、男性が 4 分の 3 を占める。

③職業等別

職業等別では、給与生活者が 96 件（56.5%）と最も多い。次いで、無職及び自営・自由業がそれぞれ 25 件（14.7%）と続く。

（３）契約金額等

1 万円未満が 48 件（33.6%）、1 万円以上 4 万円未満が 50 件（35.0%）と、4 万円未満で約 7 割を占める。10 万円以上は 13 件（9.1%）と約 1 割で、平均金額は約 42,000 円である。

（４）出品商品

テレビ、デジタルカメラ、ゲーム機、パソコン、携帯型音楽プレイヤー等、教養娯楽型の電化製品が多い。

3. 主な相談事例

【事例 1】入札に没頭し、手数料ばかりかかってしまった

豪華な家電製品や金券が、比較的安価で落札できるというインターネット広告を見て参加することにした。1 回の入札に 75 円かかる。商品の価格が 1 円ずつ上昇する仕組みであったが、意地になって、寝る間も惜しんで、入札を繰り返してしまった。だが、結局落札できず、入札用のコイン 15 万円分を使ってしまった。支払わなければならないか。

（相談受付：2010 年 10 月 契約当事者：20 歳代 男性 給与生活者 岡山県）

【事例 2】途中でやめるとポイントが無駄になると思い、入札し続けた

パソコンを落札しようと、最初に入札のためのポイントを 5,000 円分購入した。手動入札したが、なかなか落札できないため、業者にメールで問い合わせたところ、自動入札システムの使用を勧められた。そこでクレジットカードでポイントを購入し、自動入札を続けた。しかし、自分が落札する直前になると、他の人が入札してしまい、一向に落札できない。一旦やめると、今まで入札したポイントが無駄になると思い、何度もポイントを買い増しして入札を続けてしまった。

（相談受付：2010 年 8 月 契約当事者：60 歳代 女性 無職 大阪府）

【事例 3】落札したものの、高額請求に

携帯でオークションサイトを見つけて利用し、ブランドのバッグや財布など 3 点ほど落札した。入札のたびにコインを購入し、また落札まで時間がかかるのでコイン購入分を取り戻そうと思って何度も入札に参加してしまった。気づいたら、クレジット会社から高額な請求がきていた。

（相談受付：2010 年 11 月 契約当事者：30 歳代 女性 家事従事者 栃木県）

【事例4】サクラの可能性に不審

家電製品などを安く落札しようと思い、オークションサイトのみで利用可能なコインをクレジットカードで購入し参加している。42型の液晶テレビを落札しようとして何度も入札し続けたが、同じタイミングで入札する人がいたり、数十秒間画面が固まったり、さらには落札できたと思ったら別の人が入札するなど、あまりにも納得できない点が多い。サクラや成りすましがいるのではないかと思っている。

(相談受付：2010年11月 契約当事者：20歳代 男性 給与生活者 東京都)

【事例5】落札したが、出品商品が未入荷で取り消しに

ペニーオークションサイトでデジタルカメラを1円で落札。2日後、サイトより「当該商品は未入荷であるため、落札を取り消す。落札額と落札に要したコインは返却する」と一方的にメールがきた。商品の引き渡しを希望する旨を伝えようとしても、サイトの連絡先に電話やメールをしないようにと記載されていた。事業者の姿勢に納得いかない。

(相談受付：2010年11月 契約当事者：30歳代 男性 給与生活者 東京都)

4. 消費者へのアドバイス

(1) 利用は慎重に

オークションでは、最終的に落札できるのは1人で、それ以外の多くの入札者は商品を得ることができない。なかでもペニーオークションは、落札しなくても入札するたびに入札手数料が発生し、入札者が多いほど落札できる確率は減り、落札者以外は入札手数料分だけ損をする仕組みである。

落札できない場合、高額な手数料のみを支払うリスクがある。また落札しても落札価格と入札手数料を合わせると、場合によっては市場価格をも上回る可能性もある。落札の可否を運に委ねる点も大きいことから、ギャンブル性が高いともいえる。仕組みをよく理解した上で、慎重に利用すること。

(2) 参加するなら、冷静な判断力を失わないこと

一般のインターネットオークション同様、画面上でオークション終了時間が近づくと、入札価格が上がっていくが、とくにペニーオークションでは入札回数に応じて入札手数料がどの程度膨らんでいっているのかわかりづらい。そのため、入札に没頭すると、気づいたときには想定していなかった入札手数料を支払う結果となる。

またペニーオークションは、オークション終了時間が予測できないため、入札者は、ある一定の範囲で自動的に入札を繰り返す自動入札システムを利用することが多くなり、入札手数料が膨らんでいくことの一因ともなっている。

そのようなことを考慮して、参加するなら冷静な判断力を失わないこと。

(3) 一度“通貨”を購入すると返金されない

入札のため、一度“通貨”を購入した場合、解約、返金ができないというサイトは多い。また、オークションのサイトが突然閉鎖されてしまうこともあり、その場合は“通貨”が未使用であっても返金されないことがある。この点を十分に理解すること。

(4) 不審なサイトは利用しない

入札のタイミングが不自然であったり、サクラの存在が疑われるような場合がある。また落札しても、出品商品の未入荷、システムの不具合等を理由に、サイト側から落札の取り消しをされる場合もある。不審なサイトは利用しないこと。

(5) トラブルにあったら、消費生活センターに相談すること

トラブルにあった場合は、最寄りの消費生活センターに相談すること。

【情報提供先】 消費者庁 政策調整課

<参考資料>

図2 一般的なインターネットオークションの仕組み

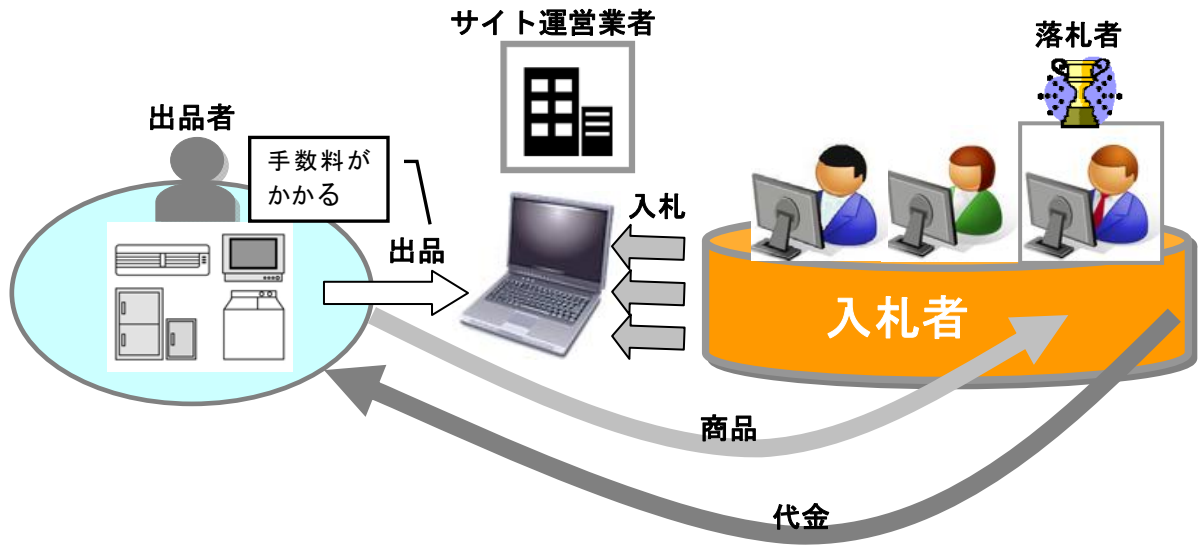


図3 ペニーオークションの仕組み

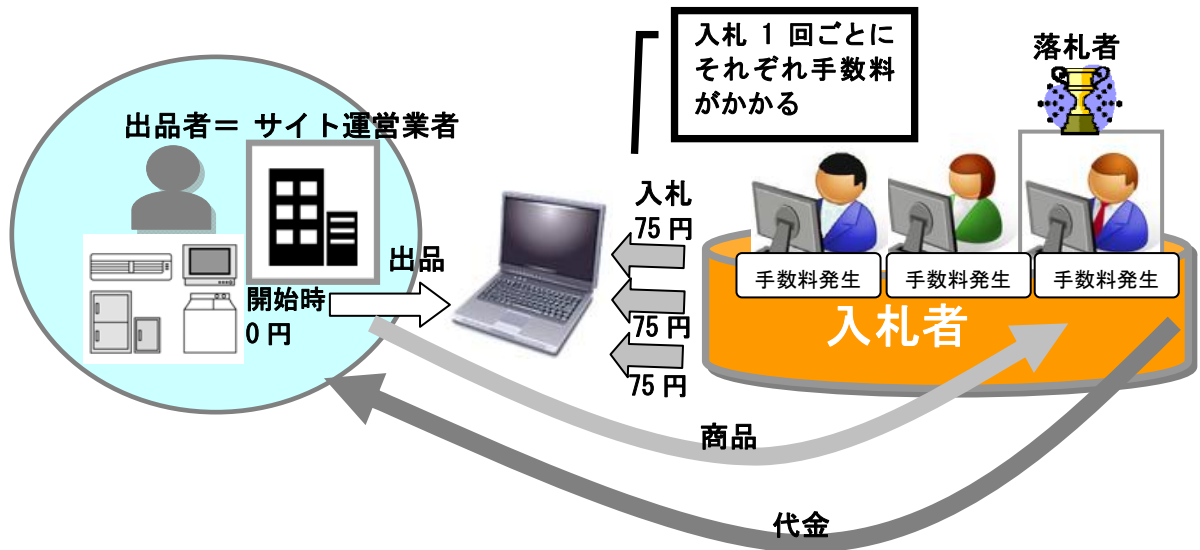


表1 一般的なインターネットオークションとペニーオークションの比較

| | | インターネットオークション | ペニーオークション |
|------------------------|-------|------------------------|------------------------------------|
| 三者（サイト運営業者、出品者、入札者）の関係 | | 三者はそれぞれ別 | サイト運営者と出品者が同じ |
| 出品商品 | | 新品または中古 | 新品のみ |
| 入札価格・入札手数料 | 入札価格 | 入札者が自由に決められる | 上昇額は固定で入札者が決められない |
| | 入札手数料 | かからない | 入札するたびに発生 “通貨”を事前にまとめて購入することが多い |
| オークション終了時間 | | 出品者が設定し、入札者に予めわかる場合が多い | 入札回数によって延長していくため、終了時間が不明 |

<title>入札のたびに手数料が・・・！ “ペニーオークション” のトラブルが急増</title>